

しらかべ

2021年7月20日 人権・同和教育部発行



新型コロナの感染拡大はまだ終息が見えない状態にありますが、休校のために大幅に学校暦の変わった昨年とは違い、今年は予定通りに夏休みを迎えることができました。このような中ですが、8月下旬には東京パラリンピックが開かれる予定です。近年、本校でも1年生対象の人権講演会（1月実施）で、パラリンピック出場選手（昨年度は柔道選手の廣瀬悠さん順子さんご夫妻）をお迎えしてご講演をいただいています。パラリンピックは、近年、広く知られるところとなりましたが、この機会に障がい者スポーツについてより多くのことを学ぶことができればと思います。

さて、今月号は6月に行いました人権・同和教育LHRでの取り組みについてご紹介します。

❖ 1年生のLHR 人権スローガンを作ろう

今学期1回目の人権・同和教育LHRでは、HR委員が司会進行し、「人権」の視点でクラス独自のスローガンを作成しました。もし一人で無人島に行くとしたら「必要なもの」は何かを、グループ（班）の中で出した上、グループメンバーの誰にとっても「必要なこと」へとスケールを広げて考えていきました。“個人の欲求”という自分中心の考えから“他者への思いやり”へと視点を広げていくことをめざしました。その後「みんなが過ごしやすいクラスになるためのキーワード」を考え、それをもとにクラス独自の人権スローガンを採択しました。入学して2か月、クラス全体で人権スローガンを考えることで、クラスの交流も深まり、一人ひとりが自らの学校生活を振り返る良い機会になったのではないかと思います。

《クラスの人権スローガン（一部）》

「㊦つも仲良く ㊧からを合わせて ㊨りこえよう ㊩ろんな壁を ㊪きゅうの果てまで」
「27 people 27 colors～個性・友愛・笑顔～」



教室を出て、体育館や図書室など広い場所を使って実施しました。

《生徒の感想より》 ▲お互いの意見をしっかり聞いて拍手したり、声掛けしたりしている様子がとても良いなと思いました。▲自分はこれでいい。でも、みんなはどうだろう？という思考を大切にしたいと思いました。▲周りの人の意見を聞いたら、たしかにその方が必要だと考えを改めさせられるものが多く、周りと一緒に考えることの大切さを改めて実感した。▲人は一人でいると道具に頼るけれど、大人数になると助け合って生きていこうという気持ちになることが分かりました。

◆ 2年生のLHR 同和問題とは何か

2年生では「高校生の同和問題学習」という副読本を用いて、同和問題学習を行っています。この副読本は、中讃地域の高等学校・特別支援学校の人権・同和教育主任が集まる研究会で編集されたもので、この春、より使いやすいようにと改訂版が出されました。LHRでは映像教材「私の中の差別意識」を視聴し、そのあと、副読本を用いて部落差別の始まりや江戸時代の身分差別について学習しました。2, 3学期のLHRでは近代日本の中で差別と闘う人々と、日本最初の人権宣言と言われる水平社宣言について学習します。

《生徒の感想より》 ▲今もなお続く差別に対し、周りがこう言っているからではなく、自分が正しい知識を身につけた上で、正しい判断をしていきたいと思いました。▲自分も自分以外の人もみんな同じ人間ということを忘れないようにしたい。▲臭い物に蓋をするように、テレビで使われなくなった差別用語などによって、見えにくくなった差別を人は皆、差別がなくなったと思い込んでいる。自分の周りには部落差別は関係ないからと言って、放っておくべき問題ではないことを改めて実感した。

◆ 3年生のLHR 差別選考解消に向けて ～就職差別を事例に～

3年生では、居住地や家族構成など、自分自身に責任のないことから就職時に差別選考が行われる、就職差別の問題を考えました。どのような質問が差別につながるか、「就職差別につながる12項目の質問」を織り込んだ模擬面接をHR委員が行い、それをもとにクラスで考えました。近年の違反質問としては、家族が同業他社に勤めているかどうかを聞く例がしばしば報告されています。これは進学時の面接入試でも同じです。学生・生徒の皆さんには、緊張する面接においても、その質問はおかしいと判断できる人権感覚を持ってほしいと思います。



リアルな模擬面接ができました



各班で出された意見をクラスで共有

しらかべ 3月号の返信から (昨年度の人権通信「しらかべ」は、本校のHPでお読みいただけます)

夫婦別姓やジェンダーの平等など女性の人権や意思を尊重する取り組みが日常的に聞かれるようになりました。うちも女の子2人姉妹です。将来、ジェンダーバランスのとれた社会で生きていけるよう世の中を変えていかなければならないと話しました。▲人権・同和問題についての話し合いを本校で取り組んでいてくれることで、とても大切な思いを子どもたちに伝えてくれていると思います。自分がその立場に立った時の気持ちになって考える大切さを一人ひとりが考える機会になったのではと思います。▲コロナからのオリンピック問題と、いろいろな気持ち、それぞれの立場…。人は違って当たり前なのですが、その違うことを認め合い、分かち合う気持ちが必要なのだということをあらためて学べたと思いました。心に留めておく気持ちと発する気持ちの選別も、人として成長する過程でとても重要だと思いました。

今号の「人権通信 2021 しらかべ」をお読みになったの感想を、別紙の返信用紙に書いて、2学期初め頃にお出してください。今後の人権通信作成の参考にさせていただきます。